

付録-3 定期点検結果の記録様式

①定期点検記録様式の種類

道路トンネルの点検表の構成及び記載内容は付表-3.1 のとおり。

今回の要領では、前回の要領から附属物等の取付状態に関する異常写真のとりまとめ様式（様式 D-1-2）及び近接目視による状態の把握が不可能であった箇所を記録する様式（様式 E）を加えた。

また、従来様式についても関連基準との整合、位置情報の追加や点検支援技術の活用による維持管理の効率化、定期点検の実施実態などを踏まえ修正を行っている。

付表-3.1 定期点検要領 定期点検記録様式リスト

様式番号	記録内容	
様式 A-1	トンネル 台帳	トンネル諸元、非常用施設諸元
様式 A-2		トンネル情報一覧表
様式 A-3		トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）
様式 B	定期点検 記録様式	トンネル変状・異常箇所写真位置図
様式 C-1-1		全スパン定期点検結果総括表（トンネル本体工）
様式 C-1-2		定期点検結果総括表（トンネル内附属物等の取付状態）
様式 C-2		状態の把握の内容
様式 D-1-1		変状写真台帳
様式 D-1-2		異常写真台帳（トンネル内附属物等の取付状態）
様式 D-2-1		トンネル全体変状展開図
様式 D-2-1'		トンネル全体変状展開図（機器の活用時）
様式 D-3		覆工スパン別変状詳細展開図
様式 E		近接目視による状態の把握ができていない箇所・近接目視によらない方法を講じた箇所
様式 F	診断調書	診断結果（変状単位・覆工スパン毎・トンネル毎）

## ②定期点検記録様式の構成

### 1) トンネル台帳【様式 A】

トンネル完成時の本体工の図書とする。トンネルの一般的な諸元には、道路区分・交通量・延長・内空断面、本体工の線形・幅員構成・掘削工法・覆工・坑門・舗装等に関する諸数値、付属施設の換気・照明・非常用施設に関する設備の設置台数等を整理する。また、トンネル情報一覧表には、覆工スパン番号と距離の関係や本体工に関する代表的な付属物、付属施設に関する情報を記載する。また、トンネル記録には、位置図や現況写真(坑口写真)、断面図や縦断図を記録するとともに、工事中の記録として施工時に不良地山で特殊工法等を用いた箇所及び検討内容・工法等を記述する。トンネル一般諸元等様式の例を以下に示す。

なお、「ID番号」欄を設けたほか、道路トンネル非常用施設設置基準の改定に伴い、非常用施設の名称等の見直しも行っている。

トンネル諸元、非常用施設諸元の例

フリガナ		路線名		管理者名		トンネルID	
名称	〇〇トンネル	〇〇トンネル	国道〇〇	〇〇河川国道事務所	緊急輸送道路 代替路の有無	あり	あり
所在地	自 東京都〇〇区〇〇	作成者	〇〇・〇〇	トンネル延長	L=	4346	m
	至 東京都〇〇区〇〇	完成年月日	2012/1/1	トンネルの分類	陸上トンネル矢板工法		
起点	緯度 36° 08' 25.2"	形式 延長	2013/1/1	施設の内訳	種別・方式	型式	個数
	経度 137° 08' 19.0"	形式 延長	AA	通話型通報設備	非常電話	-	29
	緯度 26° 08' 15.8"	形式 延長	覆工(内装なし)	操作型通報設備	押しボタン式通報設備	I型	86
	経度 137° 05' 27.4"	形式 延長	-	自動通報設備	火災検知器	-	185
一般有料区分	無料	形式 延長	排水	非常警報設備	非常警報装置	LED式	10
土かぶり	80	形式 延長	坑門	消火器	消火器	2本入り	86
内空断面積	54	形式 延長	照明	消火栓設備	消火栓	200×1500(WH)	86
交通量	18,611 台/日	形式 延長	換気	誘導表示設備	誘導表示板	反射式	25
道路幅	9.5	形式 延長	標識	避難誘導設備	ランオオ再放送設備 (郵送懸架付き)	AM・FM	1
車道幅	3.5	形式 延長	警報表示板	避難情報提供設備	拡声放送設備	SP	12
歩道等幅	1.4	形式 延長	吸音板	その他設備	無線通信補助設備	K-COSMOS	2
建築限界高	4.7	形式 延長	トンネル非常用施設	予備発電設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
中央高	7.1	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
有効高	4.7	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
縦断勾配	上り0.4%	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
直線区間長	498.7m	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
線形	区間長 233.9m	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
	起点側ワロノド	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
	曲線半径 1300m	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
	終点側ワロノド	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35
トンネル工法	補助ベンチ付全断面工法	形式 延長	トンネル非常用施設	非常警報設備	無線通信補助設備	CT-A600G	35

※緯度・経度については0.2"単位まで記入することとする。



トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）の例

■トンネル台帳 トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）【様式A-3】

フリガナ 名称	〇〇トンネル	作成者 〇〇・〇〇	作成年月日 2014年1月12日																																																																																																				
	〇〇トンネル																																																																																																						
路線名	国道〇〇	作成者 〇〇・〇〇	作成年月日 2014年1月12日																																																																																																				
管理者名	〇〇河川国道事務所																																																																																																						
<table border="1"> <tr> <td>距離T.D. (m)</td> <td>30</td> <td>40</td> <td>60</td> <td>80</td> <td>100</td> <td>120</td> <td>140</td> <td>160</td> <td>162.7</td> </tr> <tr> <td>区間長 (m)</td> <td>49.9m</td> <td>51.0m</td> <td>31.4m</td> <td>20.4m</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>断面</td> <td colspan="9">上部半断面併用施工</td> </tr> <tr> <td>掘削区別</td> <td colspan="3">D</td> <td colspan="3">B</td> <td colspan="3">C</td> </tr> <tr> <td>支保工</td> <td colspan="3">H-200φ0.9m</td> <td colspan="3">H-150φ1.2m</td> <td colspan="3">H-200φ1.2m</td> </tr> <tr> <td>7-F</td> <td colspan="3">60cm</td> <td colspan="3">45cm</td> <td colspan="3">60cm</td> </tr> <tr> <td>掘削</td> <td colspan="3">60cm</td> <td colspan="3">45cm</td> <td colspan="3">60cm</td> </tr> <tr> <td>インバート位置</td> <td colspan="3">なし</td> <td colspan="3">なし</td> <td colspan="3">なし</td> </tr> <tr> <td>創設排水</td> <td colspan="3">3.5ヶ所</td> <td colspan="3">なし</td> <td colspan="3">なし</td> </tr> <tr> <td>既設地下排水</td> <td colspan="9">15ヶ所</td> </tr> </table>				距離T.D. (m)	30	40	60	80	100	120	140	160	162.7	区間長 (m)	49.9m	51.0m	31.4m	20.4m						断面	上部半断面併用施工									掘削区別	D			B			C			支保工	H-200φ0.9m			H-150φ1.2m			H-200φ1.2m			7-F	60cm			45cm			60cm			掘削	60cm			45cm			60cm			インバート位置	なし			なし			なし			創設排水	3.5ヶ所			なし			なし			既設地下排水	15ヶ所								
距離T.D. (m)	30	40	60	80	100	120	140	160	162.7																																																																																														
区間長 (m)	49.9m	51.0m	31.4m	20.4m																																																																																																			
断面	上部半断面併用施工																																																																																																						
掘削区別	D			B			C																																																																																																
支保工	H-200φ0.9m			H-150φ1.2m			H-200φ1.2m																																																																																																
7-F	60cm			45cm			60cm																																																																																																
掘削	60cm			45cm			60cm																																																																																																
インバート位置	なし			なし			なし																																																																																																
創設排水	3.5ヶ所			なし			なし																																																																																																
既設地下排水	15ヶ所																																																																																																						
<p>位置図・現況写真・標準断面図・地質縦断面図・施工実績</p>																																																																																																							

2) 定期点検記録様式【様式B～E】

i) トンネル変状・異常箇所写真位置図【様式B】

トンネルの展開図に、変状・異常箇所の写真位置を記録する。なお、「ID番号」欄を設けた。

トンネル変状・異常箇所写真位置図の例

フリガナ				路線名		管理者名		トンネルID	
〇〇トンネル		〇〇トンネル		〇〇〇〇号		〇〇河川国道事務所		緊急輸送道路 代替路の有無	
所在地		定期点検業者		定期点検年月日		トンネル延長		あり	
自 東京都〇〇区〇〇		〇〇〇〇		2019年8月1日		L= 4,346 m		あり	
至 東京都〇〇区〇〇		〇〇〇〇				トンネルの種類		トンネル掘進工法	
緯度 36° 08' 25.2"		トンネル本体工		材質劣化		III		付属物の取付状態	
経度 137° 08' 19.0"		変状・異常箇所数合計		漏水		トンネル毎の健全性		(応急措置後)	
緯度 36° 08' 15.8"		II		外力		0箇所		58箇所	
経度 137° 05' 27.4"		II		II		0箇所		X	
		II		III		0箇所			
		III		IV		0箇所			
		IV		IV		0箇所			
		IV		IV		0スパン			
		IV		IV		0スパン			

トンネル変状・異常箇所写真位置図

注1：本位置図は、真下げた状態で記載すること。  
 注2：環工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。  
 注3：写真番号に付する変状番号は、各環工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。  
 注4：横断目地の変状は前の環工スパン番号で計上すること。  
 注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

※1 トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。  
 ※2 本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。  
 ※3 付属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分Ⅱ×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。  
 ※4 付属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分りやすく記録すること。









iii) 定期点検記録様式【様式D-1-1、D-1-2、D-2-1、D-2-1'、D-3】

変状等の写真と変状展開図を記載する。なお、変状毎の対策区分が分かるよう「対策区分」欄を設けたほか、附属物等の取付状態に関する異常写真のとりまとめ様式（様式D-1-2）を加えた。

変状写真台帳の例

フリカナ 名 称		路線名 管理番号		定期点検者 定期点検者名		定期点検年月日	
〇〇トンネル 〇〇トンネル		〇〇国道 〇〇河川国道事務所		〇〇〇〇 〇〇〇〇		2019年8月1日	
写真 番号	スパン 番号	変状 番号	変状 番号	写真 番号	スパン 番号	変状 番号	変状 番号
1	S2	1	1	53	S3	1	1
変状 部位	変状 箇所	変状 箇所	変状 箇所	変状 部位	変状 箇所	変状 箇所	変状 箇所
左アーチ	覆工	覆工	覆工	左側壁	覆工	覆工	覆工
対策 区分	対策 区分	対策 区分	対策 区分	対策 区分	対策 区分	対策 区分	対策 区分
外力	外力	外力	外力	対策区分	対策区分	対策区分	対策区分
ひび割れ	ひび割れ	ひび割れ	ひび割れ	対策区分	対策区分	対策区分	対策区分
緊急措置前	緊急措置前	緊急措置前	緊急措置前	対策区分	対策区分	対策区分	対策区分
緊急措置後	緊急措置後	緊急措置後	緊急措置後	対策区分	対策区分	対策区分	対策区分
健全性	健全性	健全性	健全性	健全性	健全性	健全性	健全性
III	III	III	III	I	I	I	I
変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模
3.5m×5m	3.5m×5m	3.5m×5m	3.5m×5m	0.5m×0.5m	0.5m×0.5m	0.5m×0.5m	0.5m×0.5m
前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態
幅2.0m長さ4.5m	幅2.0m長さ4.5m	幅2.0m長さ4.5m	幅2.0m長さ4.5m	なし	なし	なし	なし
調査方針	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)
なし	なし	なし	なし	はく掘り防止	はく掘り防止	はく掘り防止	はく掘り防止
メモ	メモ	メモ	メモ	メモ	メモ	メモ	メモ
幅3.5m長さ5.0mのひび割れ	幅3.5m長さ5.0mのひび割れ	幅3.5m長さ5.0mのひび割れ	幅3.5m長さ5.0mのひび割れ	0.5m×0.5mのひび割れ	0.5m×0.5mのひび割れ	0.5m×0.5mのひび割れ	0.5m×0.5mのひび割れ
写真 番号	スパン 番号	変状 番号	変状 番号	写真 番号	スパン 番号	変状 番号	変状 番号
1	S7	1	1	57	S7	2	2
変状 部位	変状 箇所	変状 箇所	変状 箇所	変状 部位	変状 箇所	変状 箇所	変状 箇所
左アーチ	覆工	覆工	覆工	左アーチ	覆工	覆工	覆工
湧水	湧水	湧水	湧水	対策区分	対策区分	対策区分	対策区分
湧水	湧水	湧水	湧水	対策区分	対策区分	対策区分	対策区分
緊急措置前	緊急措置前	緊急措置前	緊急措置前	対策区分	対策区分	対策区分	対策区分
緊急措置後	緊急措置後	緊急措置後	緊急措置後	対策区分	対策区分	対策区分	対策区分
Ib	Ib	Ib	Ib	健全性	健全性	健全性	健全性
II	II	II	II	II	II	II	II
変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模	変状の発生範囲の規模
-	-	-	-	0.4m×0.1m	0.4m×0.1m	0.4m×0.1m	0.4m×0.1m
前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	前回定期点検時の状態	なし	なし	なし	なし
湧水工からの湧水、にじみ	湧水工からの湧水、にじみ	湧水工からの湧水、にじみ	湧水工からの湧水、にじみ	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針
湧水調査	湧水調査	湧水調査	湧水調査	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針
調査方針	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針	調査方針
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)	実施状況(実施日)
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
メモ	メモ	メモ	メモ	メモ	メモ	メモ	メモ
湧水工からの湧水、にじみ	湧水工からの湧水、にじみ	湧水工からの湧水、にじみ	湧水工からの湧水、にじみ	目地部の劣化によるひび割れ、はく掘り、ひび割れ	目地部の劣化によるひび割れ、はく掘り、ひび割れ	目地部の劣化によるひび割れ、はく掘り、ひび割れ	目地部の劣化によるひび割れ、はく掘り、ひび割れ

※ 健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること、また、点検前に調査された措置により「と判定された箇所」も添付すること。  
 ※ たたき落としと判断した場合は、実施後の写真を添付すること。  
 ※ 変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。  
 ※ 必要措置を実施しないで判定した変状区分は、対策区分の劣化措置後の欄に記入すること。

異常写真台帳の例（トンネル内附属物等の取付状態）

■定期点検記録様式 異常写真台帳（トンネル内附属物等の取付状態）【様式D-1-2】									
フリガナ		路線名		定期点検員名		定期点検年月日		2018年6月1日	
〇〇トンネル		〇〇河川国道事務所		〇〇〇〇		〇〇〇〇		〇〇〇〇	
覆工スパン番号	S001	覆工スパン番号	S004	異常番号	101	覆工スパン番号	S007	異常番号	101
対象箇所	照明	対象箇所	照明	取付金具	取付金具	対象箇所	照明	取付金具	取付金具
異常の種類	ナット、アンカー類の腐食	異常の種類	ナット、アンカー類の腐食	メモ	アンカーの緩みを伴い螺め直し不可	異常の種類	ナット、アンカー類の腐食	メモ	
異常判定区分	×	異常判定区分	×	異常判定区分	×	異常判定区分	×	異常判定区分	×
覆工スパン番号	S007	異常番号	102	取付金具	取付金具	覆工スパン番号	S110	異常番号	101
対象箇所	照明	対象箇所	照明	メモ	がたつき、腐食	対象箇所	照明	取付金具	取付金具
異常の種類	変形、欠損	異常の種類	照明	異常判定区分	×	異常の種類	ナット、アンカー類のびびり	異常判定区分	×
異常判定区分	×	異常判定区分	×	異常判定区分	×	異常判定区分	×	異常判定区分	×
覆工スパン番号		異常番号		取付金具		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所		対象箇所		異常の種類		対象箇所		異常の種類	
異常の種類		異常の種類		異常判定区分		異常の種類		異常判定区分	
異常判定区分		異常判定区分		異常判定区分		異常判定区分		異常判定区分	

※ 異常判定区分×について記入すること。また、点検履歴中に異常判定区分×とした箇所のうち点検履歴により○と判定した箇所も記入すること。  
 ※ 点検履歴を参照した場合は、その異常状態が分かる写真添付すること。

トンネル全体変状展開図の例

定期点検記録様式 トンネル全体変状展開図【様式D-2-1】

フリガナ 名称	路線名		定期点検業者	定期点検年月日
	国道〇〇	〇〇河川国道事務所		
〇〇トンネル	〇〇トンネル	〇〇トンネル	〇〇〇〇	2019年8月1日

トンネル全体変状展開図

注1: 本展開図は、勇下げた状態で記載すること。  
 注2: 覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。  
 注3: 横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。  
 注4: 1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

トンネル変状展開図



トンネル全体変状展開図（機器の活用時）の例

定期点検記録様式 トンネル全体変状展開図(機器の活用時)【様式D-2-1'】

フリガナ 名称	〇〇トンネル 〇〇トンネル	路線名 管理者名	国道〇〇 〇〇河川国道事務所	定期点検業者 定期点検者名	〇〇〇〇 〇〇〇〇	定期点検年月日	2019年8月1日
------------	------------------	-------------	-------------------	------------------	--------------	---------	-----------

**トンネル全体変状展開図**

トンネル変状展開図

注1: 本展開図は、異下げた状態で記載すること。  
 注2: 覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。  
 注3: 横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。  
 注4: 1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

覆工スパン別変状詳細展開図の例

定期点検記録様式 覆工スパン別変状詳細展開図 【様式D-3】

フリガナ		路線名		定期点検業者		定期点検年月日									
名称		管理者名		定期点検者名		定期点検年月日									
〇〇トンネル		国道〇〇		〇〇〇〇		2018年8月1日									
〇〇トンネル		〇〇河川国道事務所		〇〇〇〇											
【健全性判定集計表】															
変状 番号	スパン 番号	対象箇所	部位区分	スパン長	9.0m 変状種類	対策区分毎の変状の有無				対策区分毎の変状の発生範囲の規模(m <sup>2</sup> )				備考 <sup>注2</sup>	
						IV	III	IIa	IIb	IV	III	IIa	IIb		
1	覆工	左側壁	材質劣化	うき・はく離	0.9										叩き落し済
2	覆工	左アーチ	材質劣化	うき・はく離	0.54										幅0.3mm、横断方向
3	覆工	左側壁	材質劣化	うき(黒音)											幅0.3mm、縦断方向
4	覆工	左アーチ	外力	ひび割れ											幅0.4mm、横断方向
5	覆工	左アーチ	外力	ひび割れ											
6	覆工	右側壁	外力	ひび割れ											
7	覆工	右アーチ	材質劣化	うき・はく離	0.2										
8	覆工	右アーチ	材質劣化	はく離、葺材露出	0.4										
9	覆工	路面	漏水	路面の漏水											0.6
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
集計		変状の発生規模合計(m <sup>2</sup> )												計	
判定		判定結果		判定区分毎の変状数		判定区分毎の判定区分 <sup>注3</sup>		判定区分		判定区分毎の変状数 <sup>注4</sup>		判定区分			
診断		健全性の診断結果		変状区分毎の判定区分 <sup>注3</sup>		変状区分毎の判定区分 <sup>注3</sup>		変状区分毎の判定区分 <sup>注3</sup>		変状区分毎の判定区分 <sup>注3</sup>		変状区分毎の判定区分 <sup>注3</sup>			
特記事項															

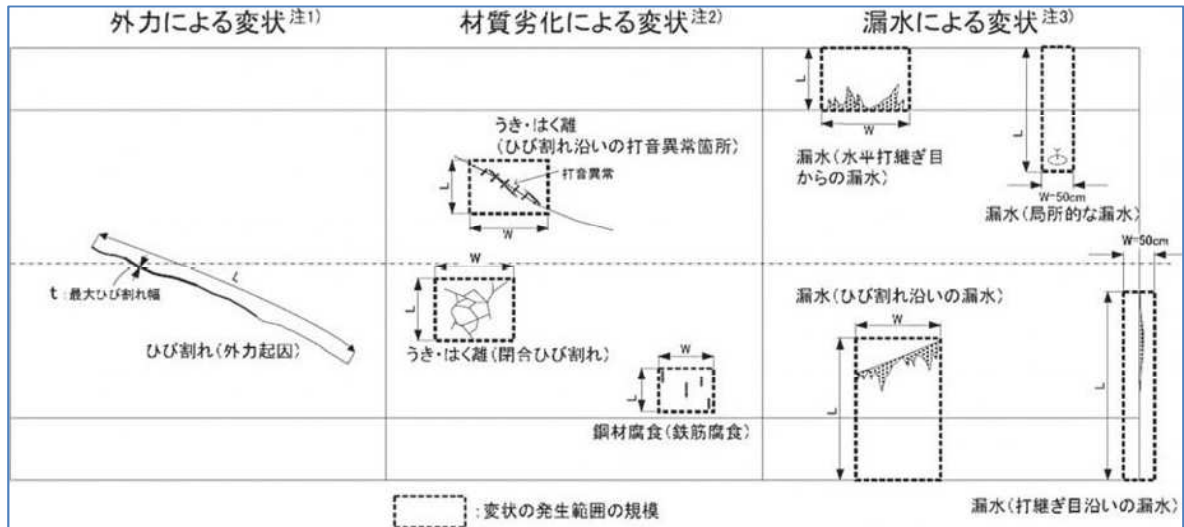


スパン別変状展開図

注1：膜記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。  
 注2：応急措置を実施した場合は、その詳細を記載すること。  
 注3：変状区分毎の最も評価の厳しい判定区分。  
 注4：変状区分毎での最も評価の厳しい判定区分。外力は覆工スパン単位、材質劣化、漏水は変状単位で行う。  
 注5：覆工スパンの中で最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とすること。  
 注6：覆工スパン単位での最も評価の厳しい健全性を採用し、その覆工スパン毎の健全性とすること。

(以下、印刷不要)  
 ※1：本シートは作成されないよう、変状が無くても全スパン分を作成すること。また変状展開図は、様式B-1(a)もしくは様式B-1(b)と同じものを覆工スパン単位で拡大し掲載すること。  
 ※2：変状番号は、様式Bで記入した番号と整合させること。  
 ※3：対策区分毎の変状発生規模は、様式A-2もしくは様式C-1-1に記載した面積を記入すること(ただし外力はスパン単位で評価するため対象外とし、備考欄に状況を記入)。  
 ※4：本様式は覆工スパン毎に作成すること。  
 ※5：変状数が多い場合は、通時、表の行を揃えて覆工スパン毎に1枚のシートに収めること。  
 ※6：対策区分毎の変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積であり、変状を包含する長さや面積とする。

様式 D-3 における、変状の発生範囲の規模の計上方法の考え方



注 1) 外力による変状：ひび割れや圧ざの場合は変状の寸法を記録する。

例) ひび割れ：長さ (L) × 最大ひび割れ幅 (t) を記録する。

変形、移動、沈下：数値的な記載が可能な場合のみ記載する。

注 2) 材質劣化による変状：材質劣化による変状を包括する面積を記録する。

例) うき、はく離 (閉合ひび割れ)：変状範囲を包括する面積 (L×W)

うき、はく離 (ひび割れ沿い)：打音異常箇所を包括する面積 (L×W)

鋼材腐食 (鉄筋腐食)：一括した対策が適当と考えられる範囲を包括する面積 (L×W)

注 3) 漏水による変状：漏水発生範囲を包括し、垂れ下がりの可能性がある側壁下端まで含めた面積を、L×W で記録する。打継ぎ目地沿いの漏水については目地を跨いだ 50cm 幅を横幅とする。





